

認知症を予防しよう！

今年度は、認知症予防をテーマにご紹介します。認知症の対策には支え合いが大切。知識を増やし、今後の生活に活かしましょう。

今月は、認知症の症状についてです。認知症が疑われる場合は、内科や神経内科、精神科へ相談してください。



認知症ストップ作戦

No.3

おたっしや本舗

今月の福祉

多久市地域包括支援センター（おたっしや本舗多久）は高齢者のみなさんが、住み慣れた多久市でいつまでも**元気で安心**して暮らしていけるように高齢者の生活をあらゆる面から応援する総合相談機関です。

生活の中で「困ったなあ」「どうしよう」と思うことがあったら、まずご相談ください。

多久市地域包括支援センター
（多久市役所 福祉課内）

☎ 75-6033

認知症の症状は？



認知症はどんな症状があるの？

大きく分けて2つあります。
ひとつは「中核症状」。もうひとつは「周辺症状」といわれ、「中核症状」にともなって起こるものです。



●「中核症状」と「周辺症状」

認知症にかかると、脳の細胞が死んで病的に少なくなることで、記憶力や理解・判断力がひどく衰えます。これが認知症という病気の本質で、「中核症状」といわれます。

また、「中核症状」のために周囲とうまく適応できなったり、心身が衰えたり不安になることなどによって、妄想や幻覚などの症状が出ることもあり、これを「周辺症状」といいます。「周辺症状」は周囲が配慮することで、発生を抑えたり、緩和することが可能です。

周辺症状

- 妄想
 - 幻覚
 - 攻撃的な言動
 - 徘徊
 - 無気力
 - 便をいじるなどの排泄の混乱
 - 過食などの食行動の混乱
- など



認知症の人が感じている精神的なストレスなどを取り除くことで症状を緩和することが可能です。

中核症状に、不安やあせり、心身の不調、周囲の適切でない対応などが影響

記憶障害

新しい体験の記憶や、知っているはずの記憶を思い出すことができない。



実行機能障害

旅行や料理など、計画や手順を考え、それにそって実行することが困難になる。



見当識障害

時間、日付、季節感、場所、人間関係などの把握が困難になる。



理解・判断力の障害

2つ以上のことを同時に行ったり、いつもと違う些細な変化への対応が困難になる。



中核症状

治すことはできませんが、治療やケアによって進行を遅らせることは可能です。

脳細胞が死ぬ